

学校の記録から見えてくるもの

～学校資料の収集を通して～

平成 29 年 10 月 14 日(土)～12 月 27 日(水)

広島県立文書館では、学校資料の収集・保存・活用に取り組んでいます。学校資料とは、学校の諸活動全般に関する資料（文書類・現物など）です。具体的には、学校運営に関する文書、生徒・職員に関する文書、校舎などの施設・設備、教材・教具、PTA 活動関係文書など多岐にわたります。当館では主に文書類に関して収集・保存・活用を行っています。

近年の少子化の影響等により、全国的に学校の統廃合が進んでいます。広島県においても、県立学校（高等学校）については、平成 16（2004）年～24（2012）年の間に分校 4 校を含め 14 校が閉校となっています。このような状況の中で、一部の学校資料を除き、これまで学校で保有・管理されてきた学校資料は散逸・廃棄の危機に瀕しています。

この展示では、これまで当館が県立学校より直接受け入れた学校資料を中心に紹介します。学校資料は、資料を通して見えてくる学校の歴史はもちろん、当時の社会経済情勢の変化など学校をとり巻く環境の変化を知ることができます。このような学校資料の持つ歴史的な意義について考えてみたいと思います。

[担当：三浦 豊]

【平成 16（2004）年～平成 27（2015）年閉校となった県立学校・特別支援学校一覧（分校含む）】

| 学校名 | 廃止時期 | 学校名 | 廃止時期 |
|----------------------------|-----------------|-------------------|-----------------|
| 吉田高等学校 八千代分校 | 平成 16 年 4 月 1 日 | 庄原格致高等学校 高野山分校 | 平成 21 年 4 月 1 日 |
| 本郷工業高等学校 | 平成 17 年 4 月 1 日 | 江田島高等学校 | 平成 22 年 4 月 1 日 |
| 千代田高等学校 豊平分校 | 平成 17 年 4 月 1 日 | 久井高等学校 | 平成 22 年 4 月 1 日 |
| 倉橋高等学校 | 平成 18 年 4 月 1 日 | 自彊高等学校 | 平成 23 年 4 月 1 日 |
| 尾道工業高等学校 | 平成 19 年 4 月 1 日 | 高宮高等学校 | 平成 23 年 4 月 1 日 |
| 三和高等学校 | 平成 19 年 4 月 1 日 | 白木高等学校 | 平成 24 年 4 月 1 日 |
| 大柿高等学校 大君分校 | 平成 21 年 4 月 1 日 | 大和高等学校 | 平成 24 年 4 月 1 日 |
| 特別支援学校 広島南特別支援学校 呉分校 | 平成 27 年 4 月 1 日 | | |

広島県教育委員会ホームページより

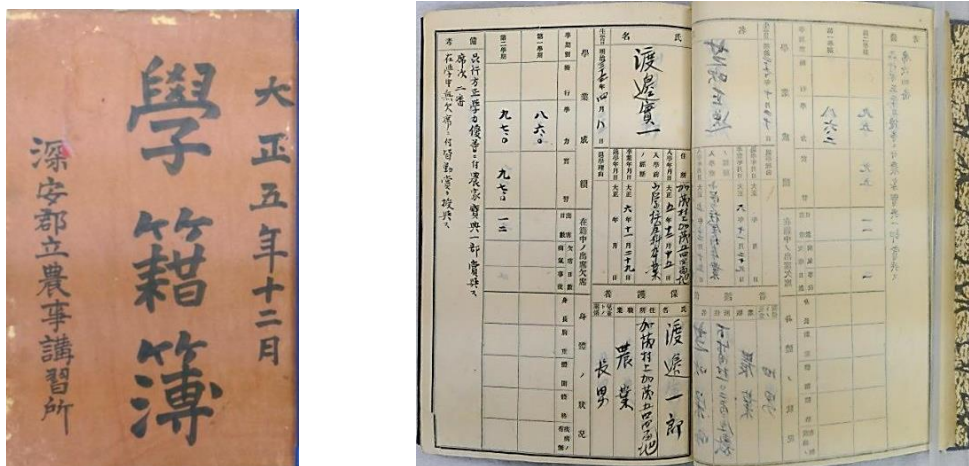
<http://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/06senior-2nd-shomei.html>

1 広島県立神辺高等学校移管文書

平成 28 (2016) 年度に受入。「事務文書」, 「監査調書」, 「学校日誌」, 「学校要覧」, 「学籍簿」など 361 点。開設期から昭和 30 (1955) 年までの「学籍簿」・「指導要録」が揃っていて、注目すべき資料である。昭和 23 (1948) 年の高校再編成時に大津野分校・山野分校・広瀬分校 (後の深安分校) が設置され、各分校の「学籍簿」や「学校要覧」なども残されている。

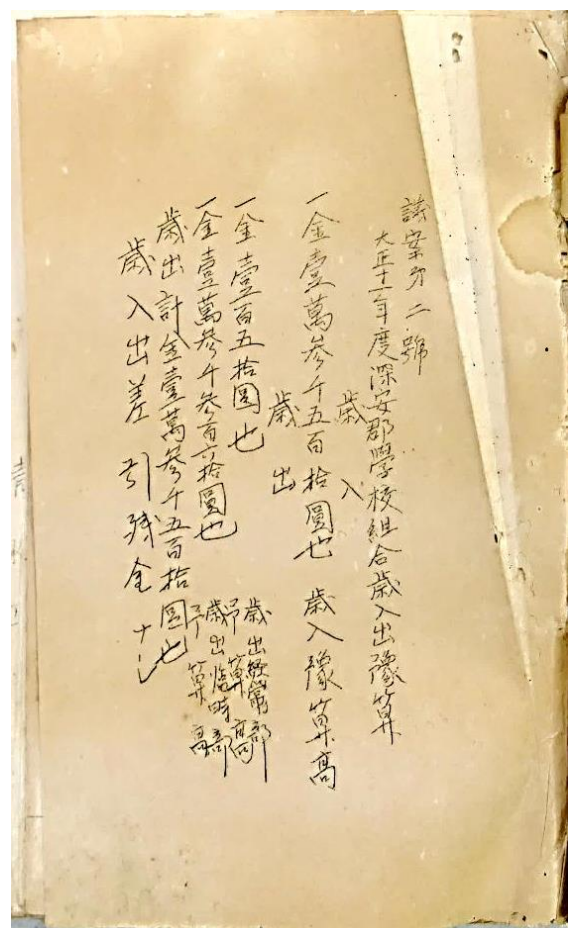
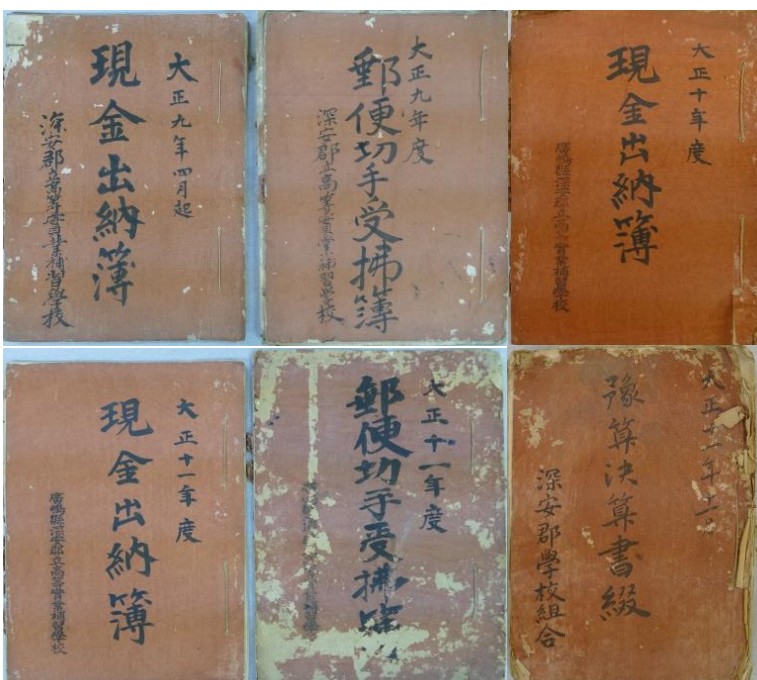
1-1 大正 5 年 学籍簿 深安郡立農事講習所 [県行政文書 02-2016-361 所収]

現在の神辺高等学校の前身は、大正 5 (1916) 年に設立された深安郡立神辺農事講習所である。設立期の「学籍簿」, すなわち生徒の指導記録が残されていることは極めて稀である。設立当初の修業年限は 1 年間で、大正 6 (1917) 年 11 月 29 日には卒業している。この「学籍簿」には大正 8 (1919) 年入学生までの記録が綴られており、評価点による席次が記入されている。当時の表装は朱色であったと考えられるが、後世に黒表紙に装丁されている。なお、「学籍簿」は本校・分校を含め 165 点が残る。



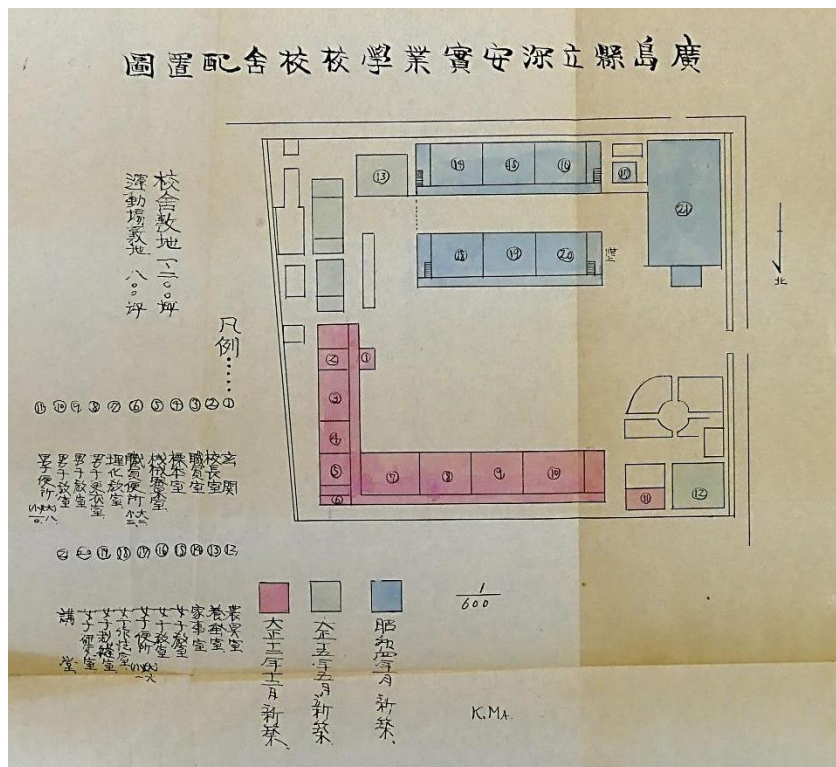
1-2 大正 11 年 予算決算書綴 [県行政文書 02-2016-7 所収]

広島県深安郡立高等実業補習学校として設立認可を受けた当初からの「現金出納簿」・「郵便切手受払簿」・「予算決算書綴」である。大正 12 (1923) 年には学校組合へ移管した。当時の予算決算状況は、歳入歳出共に 13,510 円である。



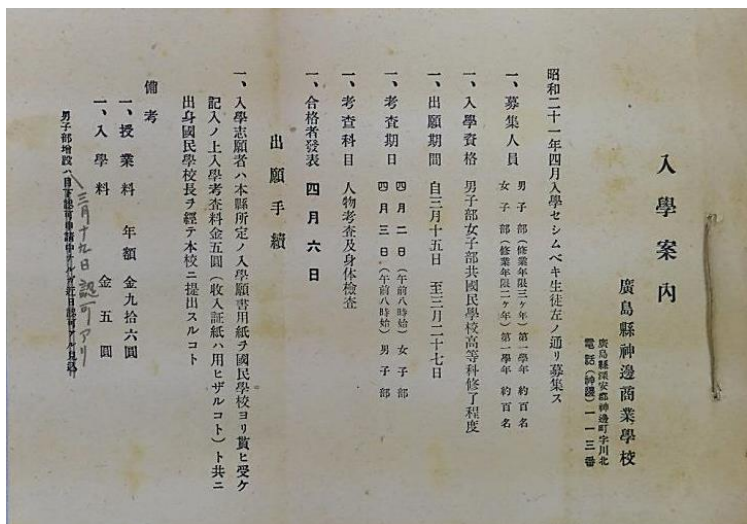
1-3 昭和4年 学校経営概要 広島県立深安実業学校 [県行政文書 02-2016-19 所収]

昭和3(1928)年に県へ移管されて広島県立深安実業学校と改称。これを機に、「学校経営概要」が作成され、校舎配置図には、新築の校舎・講堂や、大正5(1916)年、大正11(1922)年に建設された校舎と併せて、運動場を取り囲むような校舎配置が色分けされている。

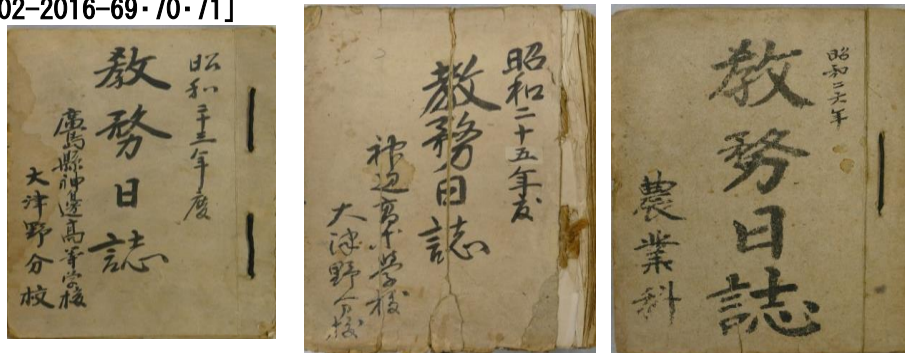


1-4 入学案内 広島県神辺商業学校 [県行政文書 02-2016-47 所収]

昭和19(1944)年に広島県立神辺農学校と改称された。同時期に神辺女子商業学校が開設され、昭和21(1946)年には広島県神辺商業学校と改称、同年4月入学生の試験が行なわれた。「入学案内」には試験日4月2日・3日、合格発表は4月6日とあり、短期間に入試が実施された。入学金5円、授業料96円とある。



1-5 教務日誌 広島県神辺高等学校大津野分校 [県行政文書 02-2016-69・70・71]



昭和23(1948)年の学制改革により、広島県神辺高等学校と改称され、9月に大津野分校・山野分校・広瀬分校が開設された。「教務日誌」とは、生徒の出欠状況や時間割に関するなどが記されたもので、現在でも教務主任が作成に当たっている。大津野分校の昭和26(1951)年の「教務日誌」は農業科と記されているように、この年から農業科が設置され、生徒の出欠状況等の他に、教職員の動静等も記され、学校日誌(校務日誌)と同様の性格を有す。

1-6 工業科転換に関する綴

〔県行政文書 02-2016-38〕

昭和 24 (1949) 年の高等学校再編成により、広島県神辺商業学校を統合して総合制の広島県神辺高等学校が開設された。この時、通常課程普通科・生活科・農業科・園芸科・商業科の 5 学科に加え、定時制課程（昼間）被服科が設置された。昭和 38 (1963) 年、これまでの学科編成を一大変革し、工業科（機械科・電気科・食品工業科・工業家庭科）を設置して、普通科・生活科・農業科・園芸科・商業科を募集停止した。「工業科転換に関する綴」には、施設設備費などの分担など、経費に関する文書が多くを占めている。

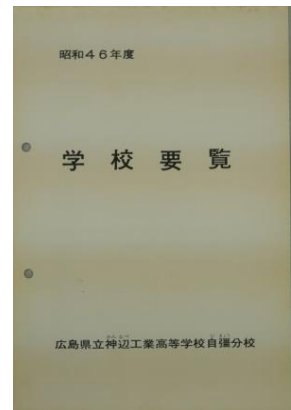
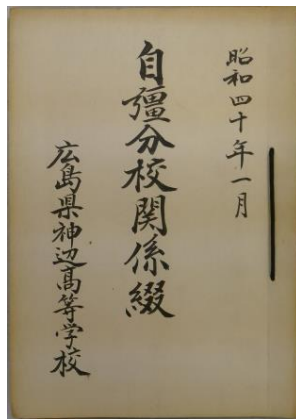


1-7 自彊分校独立に伴う関係文書

〔県行政文書 02-2016-33-40 所収〕

昭和 40 (1965) 年、広島県神辺工業高等学校に校名変更され、同時に深安分校は自彊分校と改称された。昭和 47 (1972) 年に、自彊分校は広島県立神辺工業高等学校から分離独立して、広島県立自彊高等学校となった。昭和 46 (1971) 年度の学校要覧は自彊分校として最後の学校要覧である。

その後、近年の少子化の影響などにより、自彊高校は、平成 23 (2011) 年 3 月末に閉校となった。



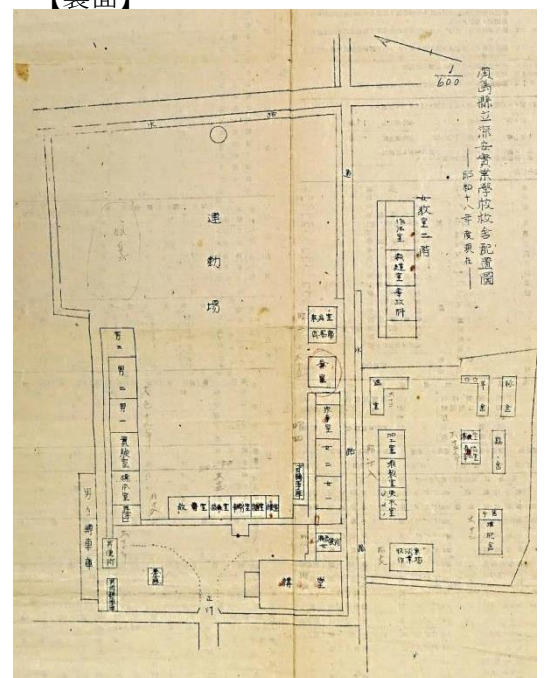
1-8 広島県立深安実業学校一覧表 〔県行政文書 02-2016-122 所収〕

「学校一覧表」とは現在の学校要覧のことである。「学校概観」も同様の性格をもつ。「学校要覧」は学校の基本的な情報や特色などの情報を記したものである。昭和 18 (1943) 年度の「学校一覧」は、1 枚形式のものとなっている。表面には学校の沿革やカリキュラムなどが、裏面には校舎配置図が掲載されている。昭和 25 (1950) 年～昭和 55 (1980) 年の「学校要覧」が全て揃ってはいないが、この間の学校要覧の変遷を見ることができる。

【裏面】

【表面】

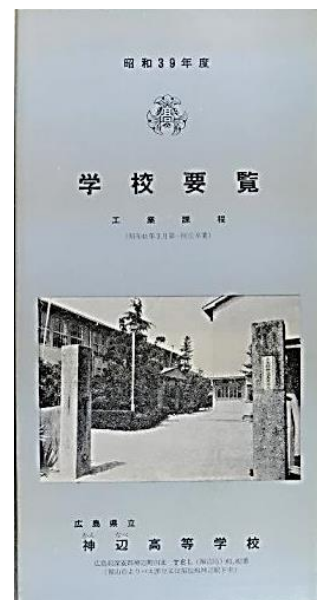
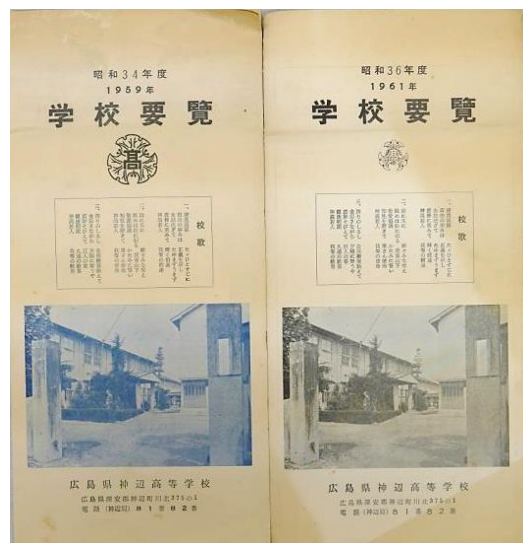
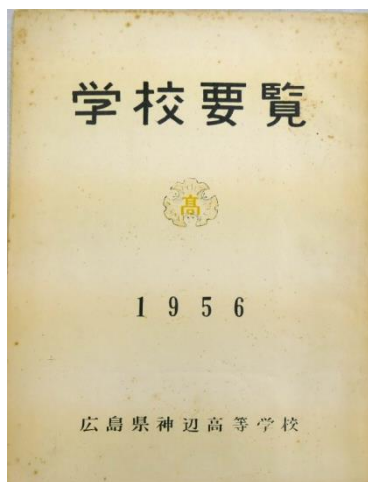
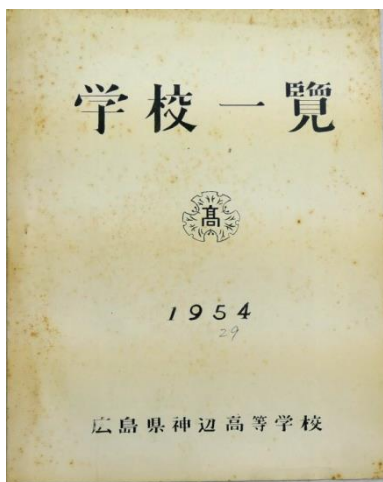
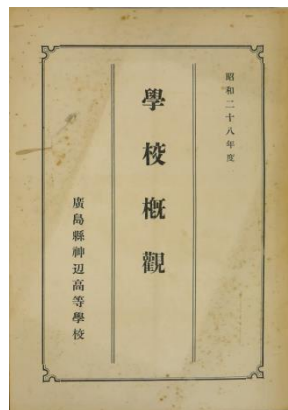
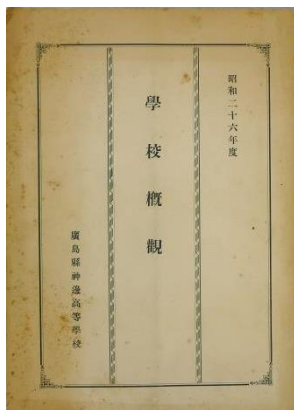
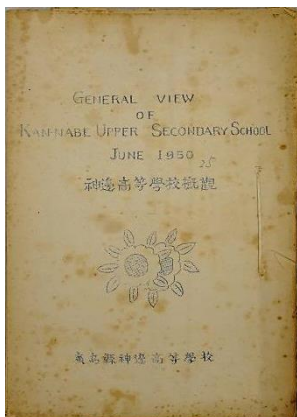
| 校名 | | 所在地 | | 設置年 | | 設置種別 | | 設置学科 | | 定員 | | 学費 | | 備考 | |
|------------|-----------|-----------------|-----|-----|-----|------|-----|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 広島県立深安実業学校 | 広島県深安郡深安町 | 昭和 18 年 6 月 1 日 | 普通科 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 | 100 |



広島県立深安実業学校一覧表 昭和 18 年 6 月 1 日現在

【昭和 25 年～昭和 55 年 学校要覧（昭和 27 年・30 年・32 年・33 年・35 年・47 年・53 年・54 年欠）】

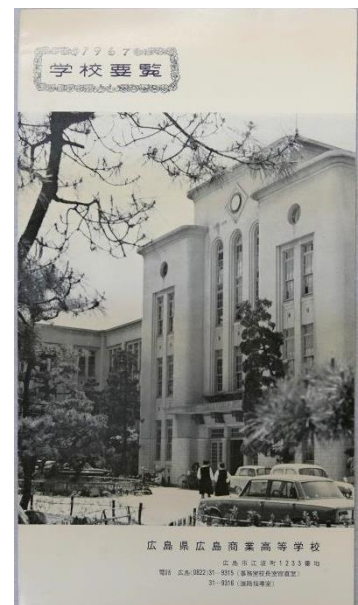
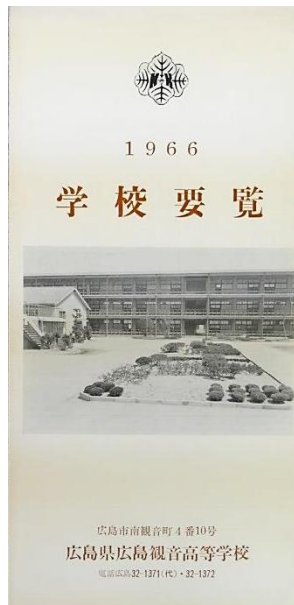
【県行政文書 02-2016-123～180 登録番号に定時制・分校の「学校要覧」を含む】



昭和 38（1963）年に工業科に轉換したことで、昭和 39 年度の「学校要覧」は 2 種類作成されている。これまでと同様の通常課程 5 学科の内容を掲載したものと、工業課程（昭和 41 年 3 月第一回生卒業）と工業科の内容が示されたものがある。



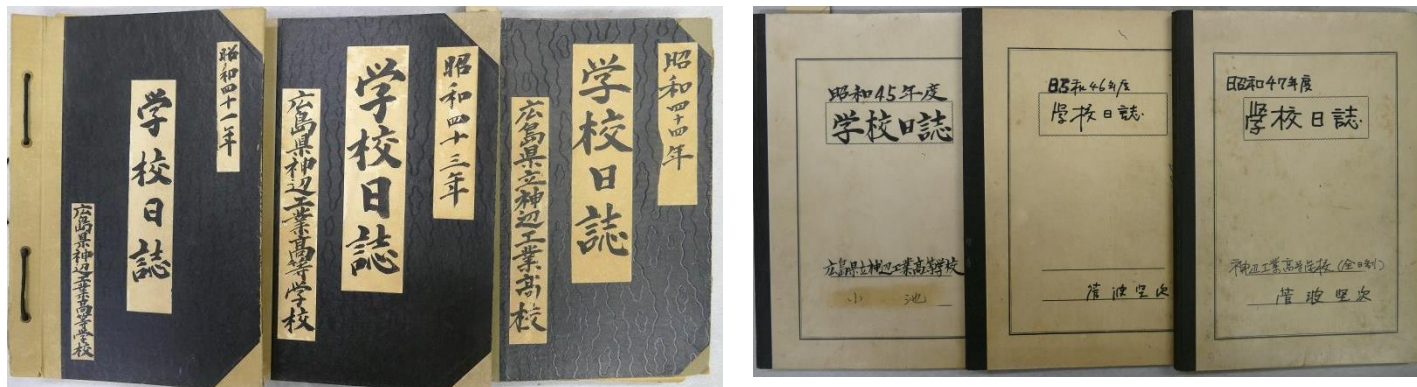
【参考】 昭和 40 年代の広島県内の県立学校要覧 [村上弑氏収集文書 200011/1729 所収]



昭和 40 年代頃の「学校要覧」は、校章
又は校舎や正門からの風景などが表紙を
飾るものが多く、各学校の特徴をよく示し
ている。

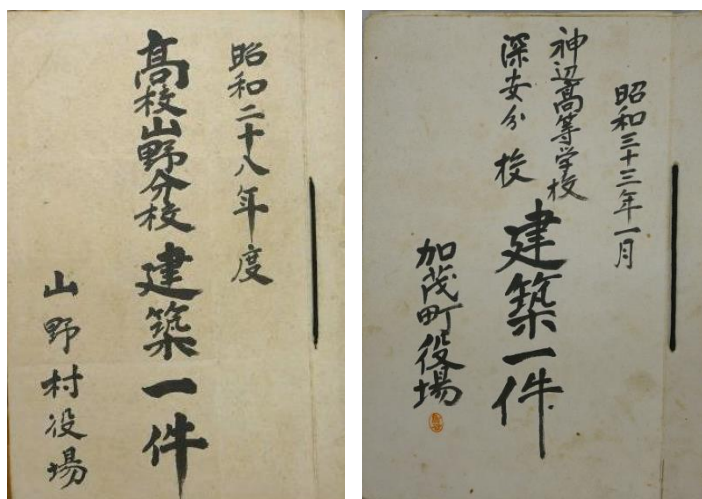
1-9 学校日誌 [県行政文書 02-2016-81~121]

学校日誌は、学校の日常を管理職（校長、教頭）により客観的に記録されたものであり、生徒・職員の動静や行事などが記され、学校の歴史を紐解く資料となっている。神辺高等学校の「学校日誌」は昭和 41（1966）年～平成 18（2006）年の 41 点が残る。

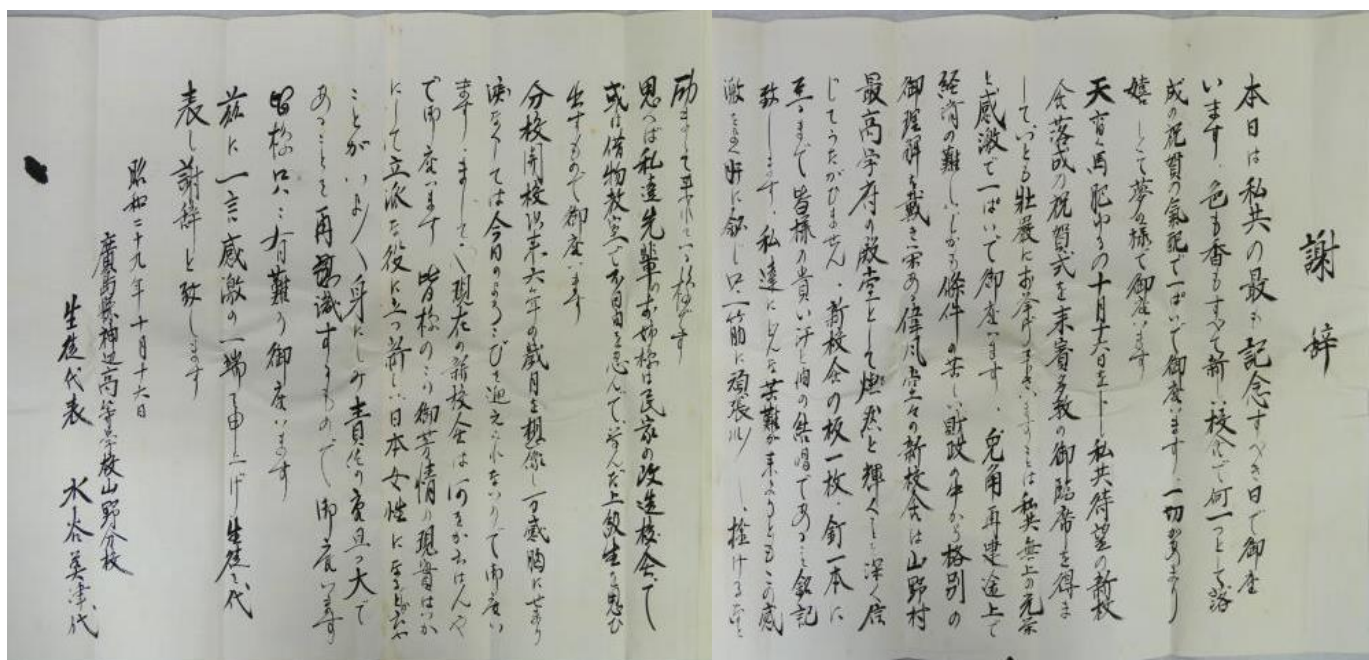


1-10 高校山野分校建築一件 山野村役場 / 神辺高等学校深安分校建築一件 加茂町役場

[山野村役場文書 199607/4591・5670 所収]



昭和 28（1953）年，広島県神辺高等学校山野分校では懸案であった校舎の新築が計られた。「高校山野分校建築一件」には，分校新築に関する事務文書を始め，昭和 29（1954）年 10 月 16 日，落成式での祝辞や生徒代表による謝辞なども綴られている。また，昭和 33（1958）年に国庫補助金による校舎の建築が進められ，「神辺高等学校深安分校建築一件」には，工事経費に関する文書が綴られている。



広島県立神辺高等学校の沿革

| | | |
|-------------|--------|---|
| 大正 5(1916)年 | 12月1日 | 広島県深安郡立農事講習所設立 |
| 大正 9(1920)年 | 3月24日 | 広島県深安郡立高等実業補習学校と改称 |
| 大正12(1923)年 | 3月15日 | 広島県深安郡立高等実業補習学校(学校組合移管) |
| ” | 3月31日 | 広島県深安郡高等実業補習学校と改称 |
| 大正13(1924)年 | 6月1日 | 広島県深安実業学校と改称 |
| 昭和 3(1928)年 | 4月1日 | 広島県立深安実業学校と改称(県移管) |
| 昭和19(1944)年 | 4月1日 | 広島県立神辺農学校と改称 広島県神辺女子商業学校設立 |
| 昭和21(1946)年 | 4月1日 | 広島県神辺女子商業学校を広島県神辺商業学校と改称 |
| 昭和23(1948)年 | 5月1日 | 園芸科設置 |
| ” | 5月3日 | 学制改革により 広島県神辺高等学校 と改称, 中学校併設 通常課程農業科, 園芸科設置 |
| ” | 9月1日 | 大津野分校, 山野分校, 広瀬分校[定時制課程(昼間)被服科設置]開設 |
| 昭和24(1949)年 | 4月1日 | 山野分校に農業科設置 |
| ” | 4月30日 | 高等学校再編成により広島県神辺商業学校を統合し, 総合制の 広島県神辺高等学校 開設 通常課程普通科・生活科・農業科・園芸科・商業科設置 定時制課程(昼間)被服科設置 |
| 昭和26(1951)年 | 3月31日 | 山野分校の農業科廃止 |
| ” | 4月1日 | 定時制課程被服科募集停止 大津野分校に農業科設置 |
| 昭和29(1954)年 | 4月1日 | 大津野分校・山野分校・広瀬分校の被服科を生活科と改称 |
| 昭和30(1955)年 | 1月1日 | 広瀬分校を深安分校と改称 |
| 昭和36(1961)年 | 4月1日 | 生活科を家政科と改称 |
| 昭和38(1963)年 | 4月1日 | 工業課程に転換 機械科・電気科・食品工業科・工業家庭科新設 深安分校に全日制課程家政科設置 定時制課程募集停止 普通科・家政科・農業科・園芸科・商業科募集停止 |
| 昭和39(1964)年 | 4月1日 | 定時制課程(夜間)普通科併設 山野分校を深安分校に統合 |
| 昭和40(1965)年 | 3月31日 | 普通科・家政科・農業科・園芸科・商業科廃止 |
| ” | 4月1日 | 広島県神辺工業高等学校大津野分校と改称 |
| ” | 4月1日 | 広島県神辺工業高等学校 と校名変更 普通科・家政科・農業科・園芸科・商業科廃止 深安分校を広島県神辺工業高等学校自彊分校に改称 定時制課程(昼・夜間)普通科設置 |
| 昭和42(1967)年 | 3月31日 | 大津野分校廃止 自彊分校の定時制課程家政科廃止 |
| 昭和43(1968)年 | 10月1日 | 広島県立神辺工業高等学校 と校名変更 |
| 昭和47(1972)年 | 4月1日 | 広島県立神辺工業高等学校自彊分校が広島県立自彊高等学校として分離独立 |
| 平成 3(1991)年 | 4月1日 | 情報技術科新設 工業家庭科募集停止 |
| 平成 8(1996)年 | 12月1日 | 創立80周年式典を挙げる |
| 平成10(1998)年 | 4月1日 | 広島県立神辺高等学校 と校名変更 総合学科に改編 |
| 平成23(2011)年 | 3月31日 | 広島県立自彊高等学校閉校し, 広島県立神辺高等学校へ統合 |
| 平成28(2016)年 | 11月19日 | 創立100周年記念式典を挙げる |

2 広島県立可部高等学校移管文書

平成 29 (2017) 年度に受入。「事務文書」, 「監査調書」, 「学校設備関係文書」, 「行事関係文書」 (修学旅行・卒業式等), 「土地登記簿」など 94 点。明治 45 (1912) 年に女学校として設立された時期から戦前までの文書が数点あり, 中でも「教授研究会記録」は, 戦前の授業研究の状況を知ることのできる資料として興味深い。



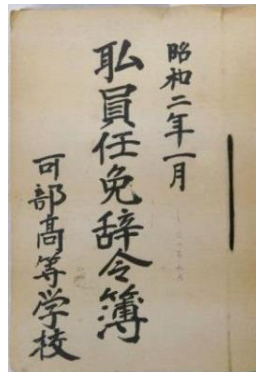
明治四十五年四月十六日 / 校長兼教諭 / 広島高等師範学校 (地理歴史部) / 我謝秀厚

| | | | | | | | | | |
|-------------|-------|----|----|----------|----|----|----|------|------|
| 年月日 | 職名 | 俸給 | 加給 | 出身学校 | 学科 | 職名 | 住所 | 退職年月 | 氏名 |
| 明治四十五年四月十六日 | 校長兼教諭 | | | 広島高等師範学校 | | | | | 我謝秀厚 |

2-1 職員名簿 広島県可部町立実科高等女学校

[県行政文書 02-2017-9]

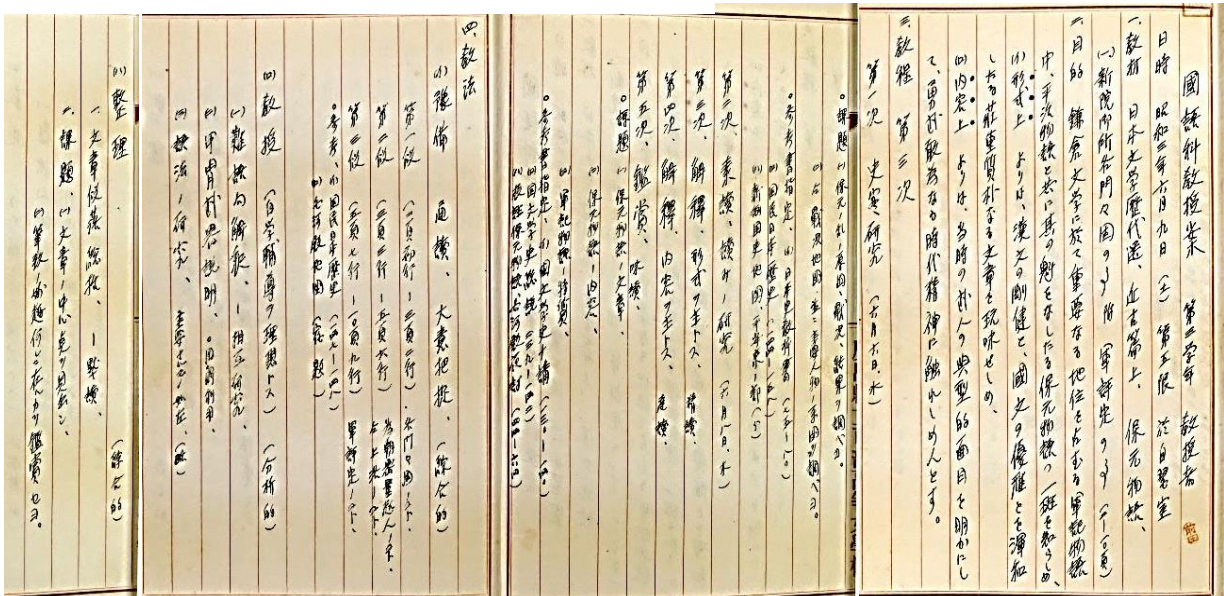
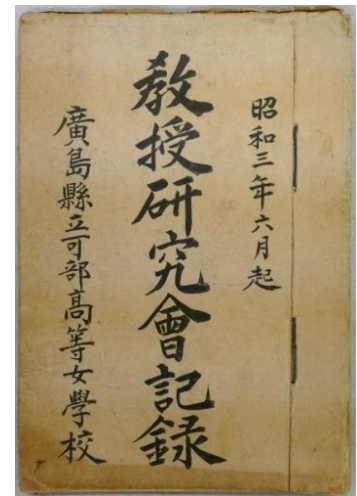
明治 45 (1912) 年 4 月 13 日, 広島県可部町立実科高等女学校設立認可を受けた当初からの職員名簿で, 昭和 16 (1921) 年頃までの採用年月日 / 職名・俸給 (給料)・出身学校・担当学科・住所・氏名などが記されている。他に「職員任免辞令簿」(昭和 2 年)・「任命簿」(昭和 11 年) など職員に関する資料がある。可部高等女学校での学年担当や教科担当などが記録されている。



2-2 教授研究会記録 広島県立可部高等女学校

[県行政文書 02-2017-12]

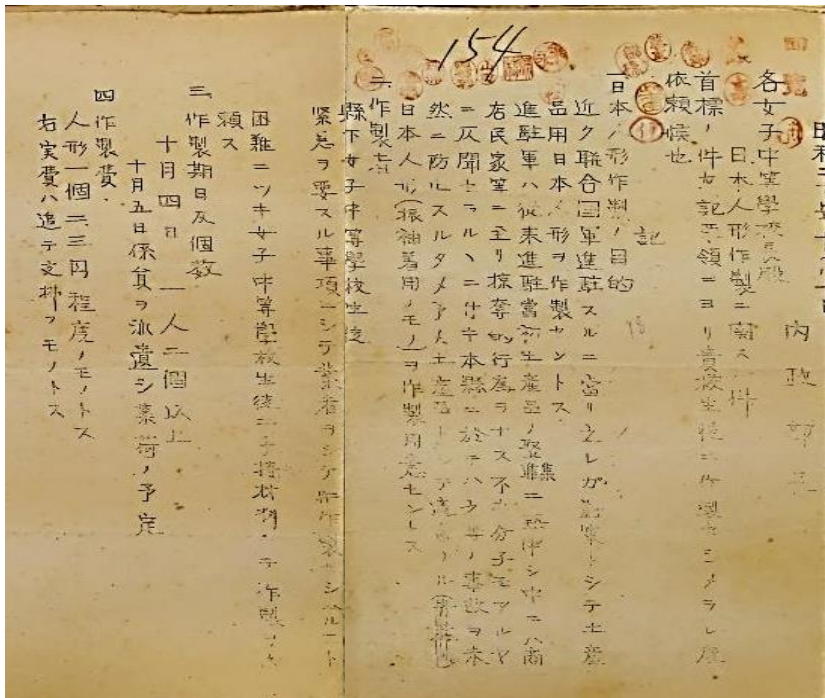
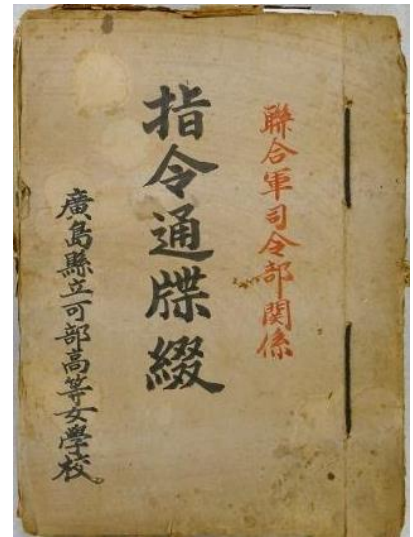
「教授研究会記録」は, 現在の研究授業後の検討会記録に相当するものである。授業担当者が作成した指導案に基づいて授業を実施後, 検討会を実施している。また, 昭和 3 (1928) 年から昭和 9 (1934) 年までの教授研究会が記録されおり, 昭和初期の授業展開や評価などを知ることができる資料である。例えば, 「国語科教授案」では教材, 目的, 教程, 教法が示されている。



2-3 連合軍指令部関係 指令通牒綴 広島県立可部高等女学校

〔県行政文書 02-2017-4 所収〕

戦後、GHQ の指令によって教育の民主化が進められ、その指令は県内政部から各学校へ通達されている。「指令通牒綴」は、このような通達の外に県独自の通達も綴られている。進駐軍の入広の対策として、昭和 20 (1945) 年 10 月 1 日に、県は日本人形の作製を女子中等学校に依頼した。当時、可部高等女学校は、昭和 20 (1945) 年 8 月 6 日の原爆の被災、9 月 17 日から 18 日にかけての枕崎台風による水害のために、9 月 27 日から、向こう 4 週間は休校となっていた。つまり、この通達は女学生には届いていない。仮に、指示を受けた女学生が、果たして作製できただろうか。



昭和二十年十月一日

内政部長

各女子中等学校長殿

日本人形作製ニ関ス一件

首標ノ件左記要領ニヨリ貴校生徒ニ作製セシメラレ度
依頼候也

記

一、日本人形作製ノ目的

近ク連合軍進駐スルニ当リ之レガ対策トシテ土産
品用日本人形ヲ作製セントス

進駐軍ハ從來進駐当初土産品ノ聚集ニ熱中シ中ニ二八商
店民家等ニ至リ掠奪的行爲ヲナス不良分子モアルヤ

二仄聞セラル、ニ付キ本県ニ於テハ之等ノ事故ヲ未
然ニ防止スルタメ予メ土産品トシテ適當ナル

日本人形 (振袖着用ノモノ) ヲ作製用意セントス

二、作製者
県下女子中等学校生徒
緊急ヲ要スル事項ニシテ業者ヲシテ作製セシムルコト

困難ニツキ女子中等学校生徒ニ手持材料ニテ作製ヲ依
頼ス

三、作製期日及個數
十月四日 一人二個以上

十月五日係員ヲ派遣シ集荷ノ予定

四、作製費
人形一個二、三円程度ノモノトス
右実費ハ追テ支払フモノトス

広島県立可部高等学校の沿革

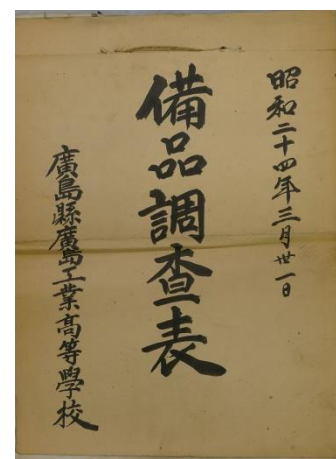
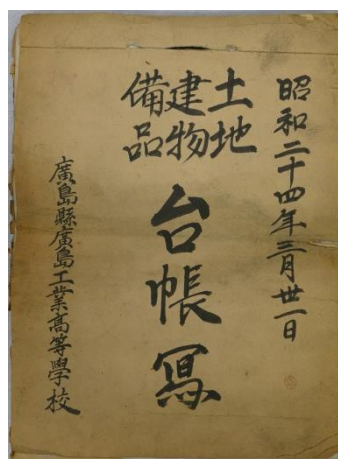
| | | |
|-------------|--------|---|
| 明治45(1912)年 | 4月13日 | 安佐郡可部町立実科高等女学校設立認可 |
| 大正12(1923)年 | 3月31日 | 安佐郡可部町外八ヶ村組合立可部実科高等女学校と改称 |
| 大正13(1924)年 | 11月7日 | 広島県可部実科高等女学校(学校組合移管) |
| 大正15(1926)年 | 4月1日 | 広島県立可部高等女学校と改称(県移管) |
| 昭和23(1948)年 | 5月3日 | 学制改革により広島県立可部高等学校と改称, 中学校併設 |
| " | 5月10日 | 定時制夜間課程普通科を併設 |
| 昭和24(1949)年 | 4月30日 | 広島県可部高等学校と改称 普通科・生活科・商業科の総合高校として発足 |
| 昭和30(1955)年 | 4月1日 | 商業科募集停止 |
| 昭和32(1957)年 | 3月31日 | 商業科廃止 |
| 昭和36(1961)年 | 4月1日 | 生活科を家政科と改称 |
| 昭和38(1963)年 | 4月1日 | 家政科募集停止に伴い, 普通科普通型・家政型となる |
| 昭和39(1964)年 | 4月1日 | 普通科普通型・家政型を甲・乙と改称 |
| 昭和40(1965)年 | 4月1日 | 家政科廃止 |
| 昭和43(1968)年 | 10月1日 | 広島県立可部高等学校と改称 |
| 昭和46(1971)年 | 4月1日 | 全日制普通科甲募集停止 |
| 昭和57(1982)年 | 11月28日 | 創立70周年記念式典を挙行 |
| 平成15(2003)年 | 4月1日 | 現代コミュニケーションコース設置 定時制単位制に移行 |
| 平成16(2004)年 | 2月3日 | ニュージーランド Middleton Grange School と友好提携 |
| 平成20(2008)年 | 4月1日 | 寺山地区新校舎に全面移転 |
| 平成22(2010)年 | 4月1日 | 現代コミュニケーションコース募集停止 |
| 平成23(2011)年 | 2月14日 | ニュージーランド Middleton Grange School と姉妹校提携 |
| 平成24(2012)年 | 11月10日 | 創立100周年記念式典を挙行 |

3 広島県立広島工業高等学校移管文書

平成 25 (2013) 年度に受入。「備品出納簿」、「学校日誌」など 138 点。明治末期～昭和 20 年代の備品に関する出納簿や、昭和 37 (1962) 年～49 (1974) 年の「学校日誌」は、社会経済情勢の変化を知ることができる資料となっている。

3-1 備品に関する帳簿類 [県行政文書 S02-2013-82・83]

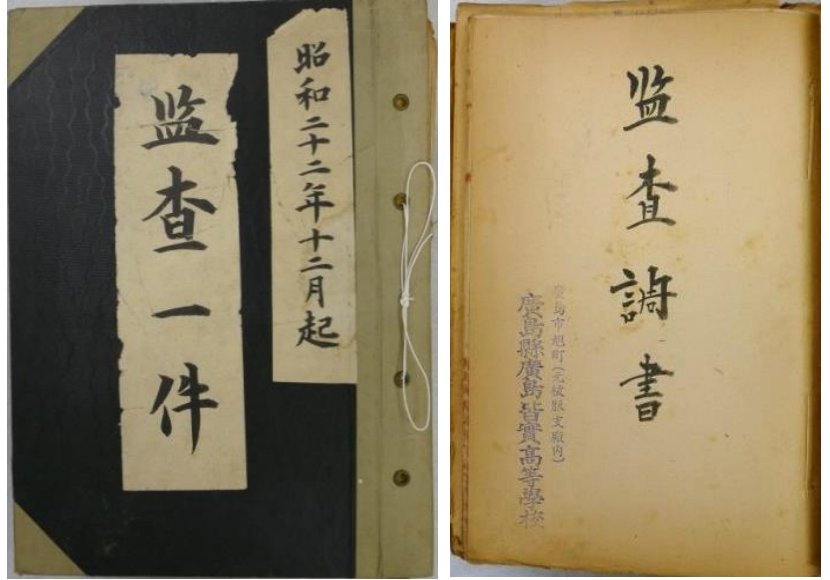
備品に関する台帳類は、備品調査・備品出納・備品書留・物品請求等があり、資料は 90 点以上ある。昭和 24 (1949) 年の「土地・建物・備品台帳写」には明治 40 (1907) 年～昭和 23 (1948) 年の備品が書き綴られている。



3-2 監査一件 昭和22年

〔県行政文書 S02-2013-121〕

「監査調書」は、学校経営状況の監査を受けるために、毎年学校が作成する資料である。この調書には学校の状況を把握するための学校経費・校舎・施設・生徒・教職員などに関する多くの情報が記録されている。昭和22（1947）年「監査一件」中の監査調書表紙には、ゴム印で「広島市旭町（旧被服支廠内）広島県広島皆実高等学校」と押されている。これは旧陸軍被服支廠敷地内で広島皆実高等学校の校名で学校運営がされたことを示す。



3-3 学校日誌 [県行政文書 S02-2013-124~136]



昭和44（1969）年度の日誌では「学校封鎖される 朝6:00頃より 校門及本館」（12月23日）という記述がある。同校では、12月初旬より二学期の期末試験に対し、一部の生徒から延期の意見などが提案され、生徒の間で議論された。教員側は職員会議を重ねた結果、予定どおり18日から実施に移そうとしたが、生徒の理解が得られないまま実施したため、試験第1日目には200人以上の生徒が試験をボイコットする事態となった。そして23日の試験最終日、生徒による「学校封鎖」が強行された。

| 直宿日 | 者校来 | 処理 | 文書 | 事 | 記 | 長校学 | 直宿日 | 者校来 | 処理 | 文書 | 事 | 記 | 長校学 | | |
|-----------|-----|----|----|---|---|-----|-----|-----|----|----|---|---|-----|--|--|
| 直宿日 直直 | | | | | 一学期末評議、三小、朝六、夕六、夜九、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百〇一、一百〇二、一百〇三、一百〇四、一百〇五、一百〇六、一百〇七、一百〇八、一百〇九、一百一〇、一百一〇一、一百一〇二、一百一〇三、一百一〇四、一百一〇五、一百一〇六、一百一〇七、一百一〇八、一百一〇九、一百一〇、一百一〇一、一百一〇二、一百一〇三、一百一〇四、一百一〇五、一百一〇六、一百一〇七、一百一〇八、一百一〇九、一百一〇、 | | | | | | | | | | |
| 直宿日 直直 | | | | | 一学期末評議、三小、朝六、夕六、夜九、一、二、三、四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百、一百〇一、一百〇二、一百〇三、一百〇四、一百〇五、一百〇六、一百〇七、一百〇八、一百〇九、一百一〇、 | | | | | | | | | | |

- 《参考文献》
- 『広島県立学校の沿革』
広島県教育委員会（1972年）
 - 『55年のあゆみ』
広島県可部高等学校（1968年）
 - 『植田静人氏収集文書 198910/578』
 - 『文書館だより』第41号
広島県立文書館（2017年）